

# 冒険しんぶん

2011/2/19

ピアノの発表会

第16版

発行・編集

ポコリーナ

ケンケン

いつもは当コミュニティのメンバーの

方のインタビューを載せていますが、今回は発表会の会場「マエストローラ音楽院」を運営されている木下理事長に音楽院設立の経緯などを伺ってみました。

\*\*\*\*\*

最近ピアノの調律師さんを変えたんですよ。1年ぐらいお願いしていた方だったのですが…。私はクラリネットを吹くのでピアノの方はあまりわからなくて。

ー 前回の発表会で弾かせて頂きましたが、以前より弾きやすかったです！  
このピアノはどんな経緯でこちらにあるのでしょうか？

当音楽院の楽院長兼講師をされている林徹也夫妻(註：旦那様はドイツのオーケストラで首席ヴィオラ奏者で、奥様はピアノリストの音楽家のご夫妻)からお借りしています。

林さんは海外で長く活躍されていて、このピアノは1980年代にドイツにいらした時に中古で買われたものだとか。楽器自体は1930年代(第二次世界大戦前)に作られたハンブルグスタインウエイでMタイプという家庭用です。日本に持ち帰った後オーバールールをして1年たったところですよ。  
ー そうでしたか…。楽器は古いものの方が値打ちがあるとのことですし、やっぱりいいピアノですね。

詳しくはわかりませんが、新品の値段が上がると中古も値上げするらしいです。このピアノも売れば700万

円ぐらいするかもしれません。

ー それだけいいピアノなのに、木下さんはクラリネットを演奏されるのであまり触らないのですか…。クラリネットを始められたきっかけは？

高校1年生の時に学校でオーケストラがありそれで始めました。ちなみに前述の林さんはこのオーケストラにも所属していて、20代から30代の半ばまでアメリカにいて、その後ドイツのシントウットガルトの室内管弦楽団に入ってます。

ー 木下さんご自身は音楽の道には進まなかったんですね。

私は大学を卒業した後はビールメーカー(註：キリンビール)に勤めました。その後UCC上島珈琲を経て外資系の社長(註：現ユニリーバ・ジャパン代表ブランドはラックス、ダヴ、紅茶のリプトン)になったので退職する頃には貯えができ、それでこのマエストローラ音楽院を創設したんですよ。

ー これだけの施設を個人で揃え、運営されるのは本当にすごいことだと思います。

退職した後、時間ができたのですが、旅行は海外出張をしてきたのでウンザリするほど行きましたし、のんびり農作業をするにも、小さいころ香川で父親からこれまたウンザリする程畑の手伝いをさせられていたので、別のことを何かやりたいと思いました。それでこのマエストローラ音楽院を始めたのです。

ー 音楽に関わることを始められたんですね。

社長だったころは、朝早く会社まで運転手さんに送ってもらうところを車を一人で運転して、人気のないところで降りてクラリネットを吹いていたり、その前の時代、ヨーロッパの本部やシンガポールにいる上司と意見がまとまらず苦しかった時にシヨスタゴビッチの曲を聴いて勇気づけられたりと音楽に救ってもらった経験がいろいろあります。

ー そうでしたか…。初めてこちらに伺った時、音楽の好きな方が運営されているなど感じました。

設立当初はどんな感じでしたか？

まず、広域から音楽好きで多くの人が集まりやすいような立地を7、80か所は検討しました。某不動産会社の役員の方に頼んで随分探してもらいました。池袋にもよさそうなのところがあったのですが、隣が遊戯施設で断念したり。

最終的に、ターゲットになる人達が来やすいのは新宿が表参道だとわかり、新宿のこのあたり(3丁目付近)を探した結果、今の場所を選んだのです。また防音を考えると、地上に防音施設を作るのは無駄なお金がかかりかかるので、新宿のヤマハからピントを得て地下に作ることにしました。この場所は最初機械室みたいなのと「ろだったんですよ。

良い音響の部屋を作るため改修を含めた初期投資には2000万円以上かかり家族には心配されました(苦笑)。

「それはご家族も大変だったでしょう。」

最初は共同出資者を募ろうかとも考えたのですが、もしそうすると、例えば「どうしてこの厚い木の床なのか、もっと「ストダウン」が必要だ」などと些細なことに見えてもコンセプトに合わない意見を受け入れなければならぬ可能性があるのでやめました。「こんな場所を作りたい」というビジョンがあったので。

「どんなビジョンでしょうか。」

マエストロ、マエストラ(註：マエストロは巨匠の男性名称、マエストラは巨匠の女性名称)が集まって指導してくれる音楽院を作り、最高の音楽環境のもとで一般の方たちに学んでいたとき、世界中どこに行っても演奏を楽しめる腕を磨ける場所にするということです。

一般の人が「プロの一流音楽家に個人レッスンやアンサンブル(室内楽)のレッスンを受ける機会をもっと増やしたい」と考えたのです。

敷居が高いと言われますが、世界に通じる音楽サービス事業のブランドを創りたいと思いますし、そのため看板、チラシ、封筒などにブランドロゴ、マークを入れ、細部にわたってマエストロ・ブランドを浸透させるよう尽力しています。

このマークはリプトンのパッケージをデザインした人に頼みました。床もカーペットもお手洗いもその一環ですよ(笑)。

「そうですね・・・講師の方々は世界で活躍されている方もいらっしゃるの

ですね。



木下さんは「ブルゴーニウワイン騎士団」の会員でいらっしゃるそうです。

今小澤征爾さんが復帰されて有名なサイトウ・キネンオーケストラというオーケストラがありますが、偶然にもそこで演奏されている音楽家3人に講師をお願いしています。

3人の先生は私の人脈を辿ってそれぞれにお声掛けしたので、後でサイトウ・キネンに入ってらっしゃると知りびっくりしました。

「それはオドロキですね！」

「この音楽院ですが、一人で演奏するだけでなく他の人と一緒に演奏する楽しさを味わえる、室内楽ができる場所を提供したいとも思っています。たとえば音大のピアノ科を卒業した人も、ソロ活動がメインであまり他の楽器と合わせる経験がなかったりしますし。よって先生は人との共同作業、コミュニケーションができる方をお招きしています。」

「そういう基準も考えられているのですね！」

講師をお願いする時は、どういってお考えでレッスンされるのかを事前に伺うようにしています。

私の考えですが、たとえばアマチュアの人々の演奏が100のうち一つしか良

いところがなく残り99がダメでも、その1の良いところを50にまで引き上げるのが良い先生だと思います。海外で論理立ててレッスンを受けてきた先生が多いので指導に裏付けがあり、「何故こう手を動かすと音がよくなるのか」「なぜここでクレッシェンドにすると効果があるのか」などを的確に指導してくれます。

「レッスンを受けたくなりました(笑)。」  
日本に年に1、2回しか来ない先生もいらっしゃるのですが、機会があれば受講されるといいですね。

「コンセプトが最初にあって、それをカタチにされているんですね。」

自宅を改修してサロンにしているわけではないので毎月家賃はかかりますし、まだ社員を雇える状態ではないのでこの留守番は私含め4人で交代してやっています。収支の見通しはなかなか立たないのですが(苦笑)。「ここにいらっしゃる方があまり緊張せず、「こんな部屋で朝から晩までリラックスして演奏していたいな」と思っていただけ、そんな空間にしたいと考えています。」

#### 〜編集後記〜

会場がマエストロ・ラ音楽院さんに移って早1年になりました。コミュニケーションの開催場所を探していた当時、「こちらに見学に伺って」「ここなら安心して演奏できる」と思ったのをよく覚えています。今回改めてとても良いお話を聞かせて頂きました。

木下さん、お忙しいところありがとうございます！